

木の芽

柴

舟

いき／＼と垣の木の芽がひかる故初夏の日を見にいでにけり
つゝましく瞳をあげて朝の空深き緑に心をひたす

桑の葉のやはらかなるに透きとほる日かげしみ／＼うれしかりけり
人もなき農家の庭をよぎるときこぼれぬ藤の花としづく

敵もなき戦をすと思ひつゝ野に出で来てはまたも愁ふる

麦ばたの末はるかなる山脈のあは／＼しきも堪へず心に

わがあらぬその日にもなほ夏は来む争ひあひて木々は生ふらむ

さをどりて初夏の水ゆく中に涙みちたる目を落しけり

衰へに近づく中の一日をうれしとおもひ野を歩むかな

春風歌

竹田みち

博オホヒナリ分マ春風恩

春風暖何樂ケ

春風習々トシシズ來キ於ヨリ東

天氳地氳衆萌發シ

千山萬嶽氷雪泮トク

鶯出ハデ幽谷遷ウツリ喬木

翠柳紅桃色盈々

如今春風日々に到リ

農夫荷鋤入ヒテ東畝リ

翁媪笑語耕春田ニ

樂シ只春風暖

春風恩何博ゾナル

靄々クモクモ嬈々復融々

煙搖霞曳暖氣通ズ

四郊八垌梅花璨タリ

燕辭シテ舊樓來ル新館

白鷺黃鸝音清々

山村水落韶光晶アキラカアリ

樵婦負薪出ハヒテ西阜ツツ

童子提攜餉阿母ニ